

農家

### 仕事取り手の薦

まごころファーム川越栽培を通して、障害者の規模拡大のための(6の17)の環境制御システム、運用を開始した。ポートの制御システムを通じて、障害福祉サービス多機能型事業所。障害がある人にも、より豊かな生活を送ってもらうための就労及び生活介護施設としてスタートし、就労により賃金を稼ぎ社会で自立することを目指してい

まごころファーム川越(埼玉)  
倉本 智史 氏  
木下 亮氏

上川越(埼玉)



副管理責任者の木下氏

# 農福連携で椎茸栽培 オムニア・コンセルト 制御システム導入

ち寄ったことがきっかけで、就業者に仕事を用意でき、栽培を自動化するのにはもちろん、快適に作業ができるようになります。植田利用者ら『京』県立川崎市内などで、ノウハウがなく環境を模索しながら、次々に床頭の数を増やしているところだ。

また、規模も拡大しても安定した品質と収量を確保できることが魅力にもつながった。現在は力。様々な企業にあたつて合計50名弱の障害者が働いており、常時30～40名が勤務する。オムニア・コンサルタルとの会見では、栽培を担当する副管理事で管理者の倉本智史氏は、「アーモンドの栽培においては、まずこのアーモンドの専務理者の中下亮氏は「ハウス内での気温が外気に左右されてしまう」として、5～10度近く、保

A black and white photograph showing a modern industrial or office building with a flat roof and large windows. The building is surrounded by a chain-link fence. In the background, there are trees and a large, white, tent-like structure. The sky is filled with scattered clouds.

農福連携事業を行うまでの流れ ファーム川越



## ハウス内の菌床シイタケ

評価を受けた」と倉本専務は話す。今後については「ますます通年栽培でフル稼働できる体制を整え、施設利用者の工賃アップを目指す。同時にどの程度の規模の施設がベストなのか、その検証もを行い、1つのモデルケースとして横展開を開いて、全国の障害者支援につなげていきたい」と倉本専務は語った。

「見事な、そこまでやる気だな」と、アラートと共に一斉換気を行い、施設利用者の命や健康を優先する。ハウスは外側を反射波フィルムで覆い、内側に完全遮光フィルムを2層入れ、断熱遮光を徹底。4棟のハウスの内、真ん中に位置する2棟は日射量が少ないため、空調制御を70%程度に抑えて稼働させ、最大限の節電にも努めている。